

★学校教育目標		○自ら考え学ぶ子 ○健康でたくましい子 ◎思いやりのある子 ○めあてをもってやりぬく		★重点計画の概要 第4次日野市学校教育基本構想の「安心できる学校プロジェクト」に取り組む。本校は、素直で元気な児童が多いが、自信をもつことが難しく自分の考えを表現することが苦手な児童も見られる。本校に在籍するすべての児童が、「自分は大切にされている」「自分が安心できる居場所がある」と感じることができる学校作りを行っていく。そのために、分かりやすい授業の実施、自己肯定感を高める活動、地域と連携した体験学習の実施を実践する。
★目指す学校像（ビジョン）				
【目指す児童・生徒像】		○学び合い、思考を深め、表現する児童 ○互いの良さを認め合い、思いやる児童 ○心身ともに健康で、最後までやり抜く児童		
【目指す学校像】		○児童にとって、楽しく生活できる学校 ○保護者にとって、子供を通わせたい学校 ○地域にとって、信頼できる学校 ○教職員にとって、働きがいのある学校		
【目指す教師像】		○高い指導力と優れた人権感覚をもつ教師 ○高いコミュニケーション能力をもつ教師 ○組織を生かして課題を追求する教師		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	児童が基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、主体的に学習に向かう素地を養う。	●基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、児童が「できた」「わかった」「役に立った」と感じられるような学習活動を工夫して授業を行う。	●「南平小スタンダード」を作成し、授業の各過程で重視する指導事項を明確にする。本スタンダードの作成により、授業のUD化を行い、全ての児童が学習内容を定着できるように支援する。 ●朝の時間にモジュール学習を行う。この時間は国語・算数の読み、書き、計算等の基礎的な内容を身に付ける時間とする。 ●教員の研修会を年間20回実施し、指導力向上を図る。	3	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	4 90%以上の児童がアンケートで肯定的な自己評価を行った。	●以前は、子どもたち1人1人は落ち着いていたが、集団になると難しい様子も見られた。しかし、今年度は子供たちや先生方がとても希望に満ちているように感じる。 ・子供たちが先生の話をよく聞き、張り切って学習している様子が多くみられた。 ・「南平小スタンダード」や「授業のUD化」は基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける具体例として評価できる。 ・読み・書き・計算の指導には今後も力を入れてほしい。	●学力向上に関する項目では、児童アンケート・保護者アンケート共に肯定的評価が90%を上回った。問題解決型の授業スタイルの実施により、子供達が「分かった」と感じられる授業を行うことができた。また、朝のモジュール学習の実施により、読み・書き・計算を中心とした基礎的・基本的な学力の定着を図ることができた。
	児童の課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む。	●課題を解決するために、既習事項を活用し、自力で解決しようとする力を育む。 ●学習したことや体験したことなどを整理し、他者に発信したり、自分と他者の類似点、相違点が確認できるような学習活動を行う。	●授業は問題解決型を基調とし、本時の課題を把握した後は、既習事項を活用して自分自身で課題解決に向けて考える活動を取り入れる。 ●授業中に、自身の考えを発表したり、相手の考えを聞いたりする学び合いの時間を設定し、思考を深める。 ●学び合いの時間において、教師が「どの考えが優れているか」という発問を行い、児童の学びを深める活動とする。		3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 80%以上の児童がアンケートで肯定的な自己評価を行った。		
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	児童の自己肯定感を醸成し、児童が様々なことに自信をもって取り組めるようにする。	●教師が分かりやすい授業を行うことで、児童が「分かった」という経験を積み重ね、自分に自信をもつ。 ●各教科・領域等において、一人一人の児童が互いを尊重し大切にされる活動を意図的に位置付ける。	●校内研究の研修主題を「自己定肯定感の醸成」と設定し、全教員で自己肯定感を高める授業づくりに取り組む。 ●50周年記念行事、委員会・クラブ活動、学級での係活動等、児童が役割を得る機会を設け、役割を果たすことの大切さや貢献することの心地よさを味わわせる。 ●上学年が下学年の手本となったり、世話をしたりする機会を設け、学年による役割意識を高めさせる。	3	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	4 90%以上の児童がアンケートで肯定的な自己評価を行った。	●開校50周年に向けて、教職員が一致団結していた。子供達は、周りの人の役に立つ喜びが高まっており、楽しさや喜びを味わうことができた。この成就感が自信となり、自己肯定感を醸成している。 ・授業で自分の考えを表現する子供が多い様子から、自己肯定感の高まりが見られる。 ・全教員が「自己肯定感を高める授業」に取り組んでいる成果が表れている。運動会・学芸会等の児童たちの発表は生き生きとしていた。	●各委員会で50周年に関する取組を行ったことで、子供達が自分たちの発想を基に活動することができた。 ・たてわり遊びを全校で行うことで、高学年のリーダーシップを育成することができた。 ・教師が子供達の頑張りを認める声かけを積極的に行い、分かりやすい授業を行うことで、児童が自己肯定感の高まりを感じられるようにする。
	自他ともに命を大切にし、互いに尊重し合える豊かな心の育成を図る。	●相手の考えに向き合うことのできる対話の場面や、友達の良さを発見できるような場面を取り入れる。 ●いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。	●児童の考えをもとに作成した生活の決まり「南平小セブンルール」の早期定着を図るために、全校朝会等で代表委員会児童から全校に周知する機会を設ける。 ●国語、道徳など、心情に触れる教材の学習場面において、登場人物の気持ちを想像し他者と交流し多様な考えに触れる学習機会を設定する。 ●いじめアンケートや観察等を通して、いじめの未然防止、早期発見に努める。また、いじめの疑いがある場合は、速やかに組織的に対応を行う。		3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 80%以上の児童がアンケートで肯定的な自己評価を行った。		
社会と未来に開き、みんなでつくる	地域の自然や人材とのかかわりを通して、ふるさと日野で育っているという実感を醸成する。	●南平小の自然や産業に関する営みに触れ、体験的に学べる学習活動を計画的に実施する。 ●日本の伝統的な文化や地域の文化に触れ、それらのよさを体験的に学べる学習活動を行う。	●学校農園「すずかけ広場」での米作り、しきなみ短歌作り、空手教室、菊教室等、地域の方をゲストティーチャーに迎え、日本の文化、南平小の自然を体験できる学習を行う。 ●地域に関して学習したことを、他者に発信する機会を設け、児童と地域人材が豊かにかかわれるようにする。 ●近隣の幼稚園、保育園、中学校等と連携して学習を行うことで、児童が様々な人とかかわり合って生活していることを実感できるようにする。		4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	4 90%以上の児童がアンケートで肯定的な自己評価を行った。	●校庭の田んぼは貴重な設備である。食物が作られる過程を学習する機会となっている。カリキュラムを工夫し、全学年で栽培活動を行えると本校の特色が更に充実する。この学習は地域の支えで成り立っている。未永く継続してほしい。田植えや稲刈りの際には、さらに協力していただけるよう声かけが必要。 ・しきなみ短歌は、年間を通して校内に掲示してあるの目にする機会が多く、毎回楽しみに読んでいる。	●4年生の稲作をはじめ、低学年の浅川観察など、地域の方の協力を得て多くの体験活動を実施することができた。今年度はプロの縄跳びパフォーマンスを招聘した授業を実施し、児童はプロから学び喜びを感じていた。また、近年中止していた幼稚園・保育園との交流も3学期から行う予定である。これにより新1年生が安心して入学できる環境を整えていく。
	学校と地域が共に動くような仕組みを作るとともに、地域と連携し、よりよい学校を構築する。	●地域協力者や各団体と連携した学校運営体制を構築する。 ●教員の力を最大限に発揮できる環境を醸成し、児童や地域に貢献できる人材を育成する。	●学校運営連絡協議会、50周年実行委員会、民生・児童委員、学校ボランティア等、様々な機関と情報交流を図り、学習活動や地域の取組を通して、共に児童の健全育成を推進する。 ●校長の方針のもと、校内人材配置の最適化を図り、組織的・効率的な学校運営を図ることで時間や業務の圧縮と負担軽減を図り、教員の力が最大限に発揮できる体制を構築する。		3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。		3 80%以上の児童がアンケートで肯定的な自己評価を行った。		
				3	2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	2 70%以上の児童がアンケートで肯定的な自己評価を行った。	●育成会や児童館等と連携し、子供達が様々な経験をしていく事が大切である。50周年行事等を通して教員の行動力、団結力を感じた。これが子供達にも反映し、楽しい学校づくりの基盤となっている。今後は、PTAとの連携を強化し、子供達を育てていく環境を整えたい。 ・開校以来、南平小は地域の学校として親しまれ、地域の協力があり現在に至っている。今後も地域の力を借りながら、教員の力が最大限に発揮できる体制を目指してほしい。	●50周年記念事業では、地域の皆様と共に準備を進め、祝うことができた。バールンリリースでは60名以上の保護者の皆様にお手伝いいただき、実施ことができた。児童の愛校心を育む貴重な機会となった。 ・会議の時間短縮等を進め、その時間を児童と関わる時間に使うことができた。今後も、教師の特長を生かした校内配置により指導の充実を図る。
					1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。		1 肯定的な自己評価を行った児童が、70%未満だった。		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。